

大学院 教育評価アンケート結果

2019年度 修士課程【国際保健助産学専攻】

2019年度の修士課程(国際保健助産学専攻)の在学生(1~2年生)を対象とした教育評価アンケートは、新型コロナウイルス(COVID-19)感染症の影響を受け、例年よりも回収率が低くなりました。以下、在学生の調査結果についてご報告いたします。

■強くそう思う ■そう思う ■どちらともいえない ■そうは思わない ■全くそうは思わない ■無回答

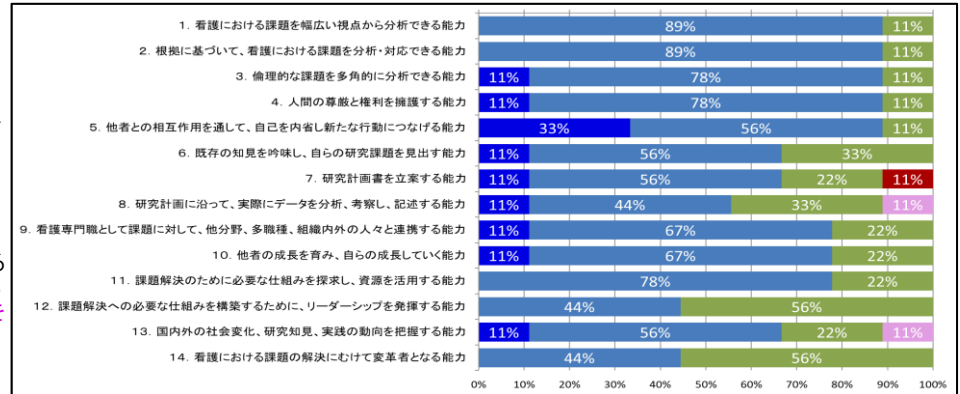
I. 現時点であなたが以下の項目を身につけているかについて回答してください

修士課程(国際保健助産学専攻)において現時点で身につけている能力として、在学生の8割以上が「強くそう思う」「そう思う」と回答した項目は、14項目のうち5項目でした。

そのうち、「看護における課題を幅広い視点から分析できる能力」(89%)と「根拠に基づいて、看護における課題を分析・対応できる能力」(89%)は、「DP1. 実践における現象から課題を抽出し、幅広い視点から分析する能力」に対応しています。

また、「倫理的な課題を多角的に分析できる能力」(89%)と「人間の尊厳と権利を擁護する能力」(89%)は、「DP2. 人々の尊厳と、権利を擁護するために、倫理的課題を多角的に分析し、対応する能力」に対応しています。

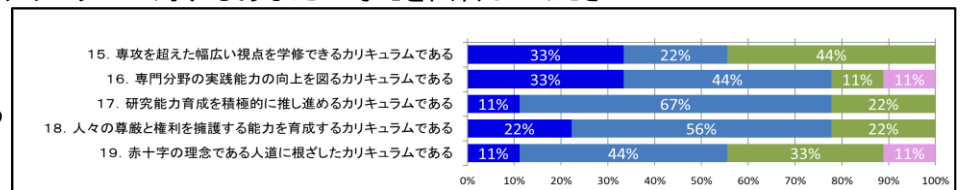
さらに、「他者との相互作用を通じて、自己を内省し新たな行動につなげる能力」(89%)は、「DP3. 他者との相互作用を通じて、自己を内省し、新たな行動につなげる能力」に対応しています。



II. 本学大学院(修士課程)のカリキュラムに対するあなたの考えを回答してください

修士課程(国際保健助産学専攻)のカリキュラムの受け止めについて、7割以上の在学生が「強くそう思う」「そう思う」と肯定的に評価した項目は、5項目のうち3項目でした。

研究能力育成を積極的に推し進め、人々の尊厳と権利を擁護する能力を育成し、専門分野の実践能力の向上を図ることができるカリキュラムであると評価されています。



III. 大学院における以下の内容に関する満足度を回答してください

本学大学院への満足度として、修士課程(国際保健助産学専攻)の在学生の8割以上が「強くそう思う」「そう思う」と肯定的に評価した項目は、26項目のうち9項目でした。

視野を広げて新しい発見をする授業が多いことが評価されています。また、学問分野の専門家として優れた教員や、学生を尊重する教員、教育や研究、実践に対して熱意を持った教員、人間的な魅力がある尊敬できる教員が多いことが評価されています。さらには、窓口対応のスムーズさや図書館の文献・資料・情報の充実さ、院生室の開放時間の適切さ、キャンパスの安全性についても評価されています。

